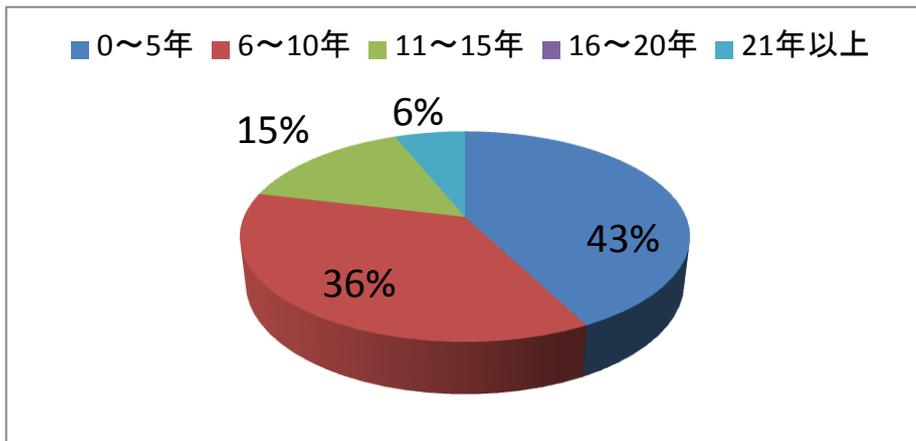


一般社団法人静岡県作業療法士会 平成27年度
生活行為向上マネジメント推進研修会 ABコース アンケート結果

日時：平成27年7月12日（日） 10:30～16:30 会場：浜松市リハビリテーション病院
参加者：33名 アンケート提出者：33名 回収率：100%

1. 経験年数

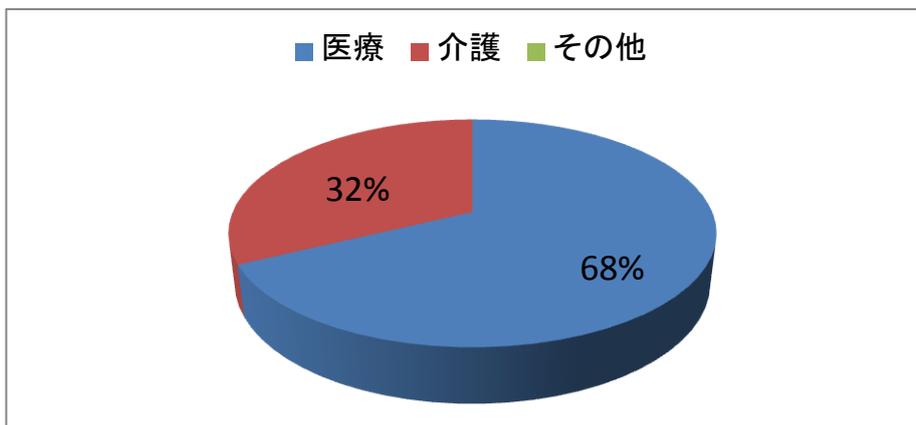
0～5年	14
6～10年	12
11～15年	5
16～20年	0
21年以上	2



2. 保険領域区分

(重複回答あり)

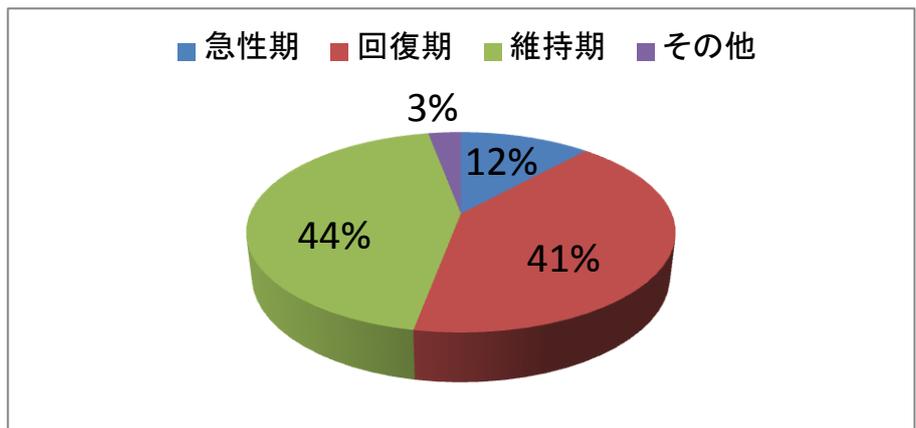
医療	21
介護	10
その他	0



3. 病期区分

(重複回答あり)

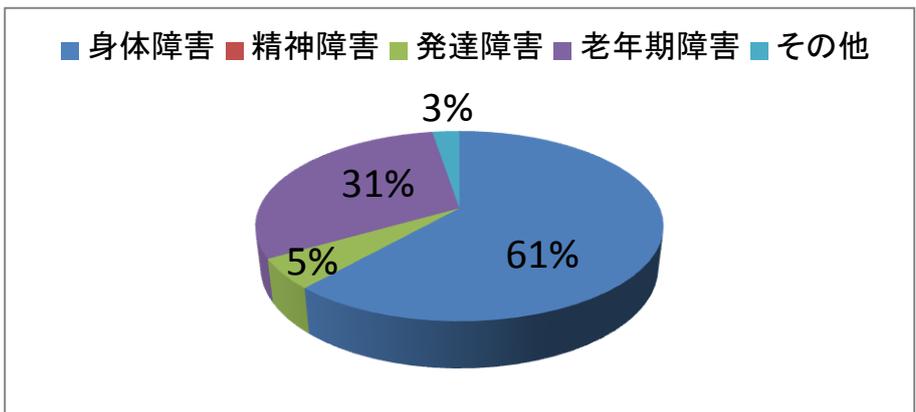
急性期	4
回復期	14
維持期	15
その他	1



4. 分野区分

(重複回答あり)

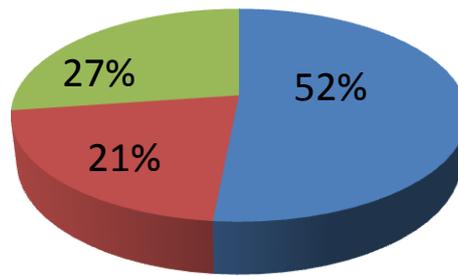
身体障害	24
精神障害	0
発達障害	2
老年期障害	12
その他	1



5. ①退院調整会議または、ケアプラン会議への参加頻度

できるだけ参加	17
ときどき参加	7
不参加	9

■ できるだけ参加 ■ ときどき参加 ■ 不参加



5. ②その理由

【出来るだけ参加している】17

【ときどき参加している】7

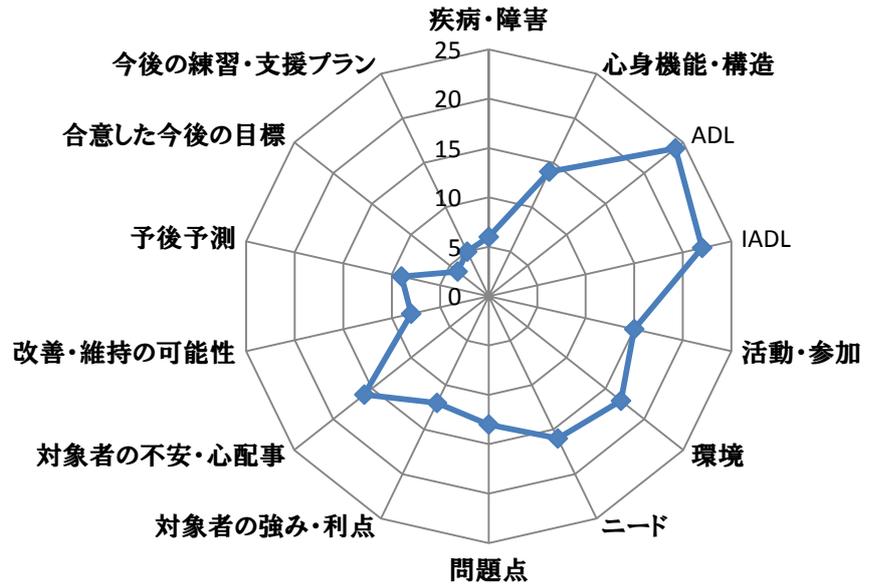
多職種が連携しやすくなるから。
方向性の共通理解がしやすいから。
時間調整が可能な時は参加している。
今後の目標などに反映させるため。
現状の報告と今後の生活の中での注意点などを次の担当者に伝えるため。
ケアプランについては今後の方向性を検討していくため。
患者の社会参加や地域生活を考えて、OTの視点を申し送れるように参加しています。
入院リハと退院後の生活をつなげるため。
その人の人生に関わることだから。
訪問開始前に情報収集を行い、初回より意味のあるサービスを提供するため。
退院時にケアマネや施設の方、家族が来院した際に一緒に話し合いに参加しています。
必要に応じて事前に参加要請があった時には必ず出席するようにしている。
主任が退院調整役となっているため会議に参加しています。
ケアマネから依頼された際は参加しますが、OTから積極的に会議を開くということはありません。
基本的に所属長が参加しているため、時々参加になる。
患者や家族、ケアマネが希望しない限り、会議は開催されないため機会は少ない。
機会があれば参加する程度で積極的には参加できていません。

【参加していない】9

会議に参加しても、発言して来られるだけの経験を持つOTがないから。
ケアプランはケアマネが決めてそれに沿っているため、OTからプラン作成前に意見することはない。
外来で介護保険を利用しているても会議を行うことがないため。
退所調整会議は開かれているが、その後のケアマネと関わる機会は少ないため。
参加する機会がないため。

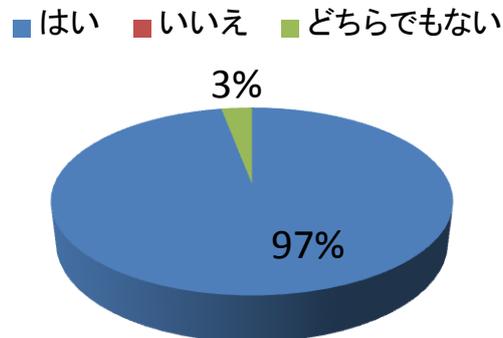
5. ③退院調整会議または、ケアプラン会議でOTが説明に心掛けている内容 (重複回答あり)

疾病・障害	6
心身機能・構造	14
ADL	24
IADL	22
活動・参加	15
環境	17
ニード	16
問題点	13
対象者の強み・利点	12
対象者の不安・心配事	16
改善・維持の可能性	8
予後予測	9
合意した今後の目標	4
今後の練習・支援プラン	5
その他	2



6. ①今後、生活行為向上マネジメントを活用したいと思いますか？

はい	33
いいえ	0
どちらでもない	1



6. ②その理由

【はい】33

多職種との総合的なケアの実現のため。
 多職種をマネジメントしていく際に上手く活用が出来そう。
 対象者を包括的に捉えていきやすく、他職種との情報共有がしやすいから。
 対象者のニーズと家族のニーズを見える形として支援していくのが分かりやすいため。
 利用者の生活行為にアプローチをして、QOL向上に繋げていきたいから。
 OTの専門性が分かりやすく、評価から治療プログラム、本人のニードや個人因子を取り入れやすいので。
 OTらしい考え方で対象者と一緒に考えていけるから。
 対象者のニーズに合わせたリハビリを提供するために必要な考えを整理できるだけでなく、その方の1日の生活を考えながら必要なADLやIADLも明確になるため。
 シートを埋めていくことでやるべきことが整理できるから。
 申し送りシートやサマリーに書ききれない事や見落としが減ると思うため。
 対象者が求めている目標を立てられるから。
 OTとして作業に焦点を当てたアプローチを行っていきたいと思っていて、何をどうすれば良いのか分からなかったのですが、生活行為向上マネジメントは実践で使えるツールだと思いました。
 OTの専門性を行政に認めてもらうため。

患者中心となり、その目標に向かって何をすべきか、何が目的なのかを明確化することができると思ったから。

明確にしたものを多職種のスタッフや本人と共有できる部分がとても良いと思ったから。

難しさや大変さもありますが、行うことでリハビリの質の向上に繋がると感じているから。

施設全体の役割や目標共有を明確にするため、OTから全体に関わりを作っていきたいため。

OT介入の枠組みが明確なため。

カンファレンスでは、患者の予後予測をイメージで決めてしまっていることが多く、本人に必要なことや望んでいる事を話していない現状があり、今後はMTDLPを活用してチームで取り組みたい。

加算取得の理由もあるが、今の通所リハは運動療法の考えが多く、ADL向上意識が低いので、OTとしてこれから色を出してMTDLPを活用していきたい。

対象者・家族・スタッフとの情報の共有化を図るために活用していきたい。

回復期からMTDLPで申し送られた利用者さんに対して、スムーズな移行を図り、より良いサービスを提供していくため。

在宅において目標のあるサービスを提供していくため。

今まで業務上行ってきた流れに類似しているが、きちんとしたツールがなかったので、これでどの職種にも分かりやすく伝えることが出来そうだから。

日々の業務の中でどこまで活用できるのか現段階ではわからないが、考え方には共感できるので、自分のアセスメント力を見直して多職種への伝達として学んでいきたい。

通所リハの生活行為向上加算を取るために研修を修了して活用したい。

演習を通して分かりやすく理解できたから。

慣れるまでは大変だと思いますがやってみようと思います。

活動参加に繋がる関わりをしたいので活用してみたい。

ケアプランに反映できるツールとして活用できそうだから。

アセスメントをして訓練に結び付けるとい頭の中でいつもやっていることだが、文字にすると自分も多職種にも見やすく、訴えやすいため。

【いいえ】0

【どちらともいえない】1

発達障害・小児分野でどのような対応をしていけば良いか悩みます。

7. 今回の地区勉強会の感想・ご意見

とても丁寧に教えて頂きありがとうございました。

講義では分かり易い説明をありがとうございました。

わかりやすい講義をありがとうございました。

本日は分かりやすい説明や解説をありがとうございました。また宜しくお願い致します。

自分のものに出来るか不安ですが努力していきます。

作業が大切で元気になるということは理解していますが、作業の分析や医療職としての作業の治療的な意義についてOTが理解を深めることでMTDLPがさらに普及するのではないかと思います。

グループワークをすることで年代の違いや領域の違いにより、良いディスカッションが出来ました。

私だけが新人であり、あまり意見が言えませんでした。考え方など今後の参考になって良かったです。

講師の先生がやってきたMTDLP事例などをもっと多く聴きたかったです。

少しずつ職場で使っていこうかと思いました。

とても勉強になりました。今後は実際に使っていき、より良いサービスの提供が行えるようになっていきたいと感じました。

MTDLPとは何か？という基本的な事をあまり知らずに参加したため基礎を学びたかったです。事例を通して基礎的な考えを深められれば良いと思いました。

今後、事例検討会の機会を増やして欲しいと思います。

実際に事例演習をしていただいたことでシート記入の仕方や考え方が良く分かり、良かったです。

新しい浜松市リハビリ病院にも入れて、会場環境も勉強になり良かったです。

演習があり分かりやすかったです。

小児の場合も相談支援事業所や通園施設、学校などで個別支援計画を策定するようになっていきましたので、その中にどのように伝えていくかを考えたり、整理するにはどうしたら良いかの参考になりました。